

おおさか文化遺産めぐり その217

民藝運動で見いだされた 日常生活の中にある「美」を展示・紹介



大阪日本民芸館は、1970年の日本万国博覧会(エキスポ'70)のパビリオン「日本民藝館」として建設され、1972年に民藝運動の西の拠点として開館した施設です。
美術評論家で宗教哲学者の柳宗悦むねよしが提唱した民藝思想をもとに集められた約6,000点の民藝品を所蔵しています。

民藝運動に加わった河井寛次郎の作品

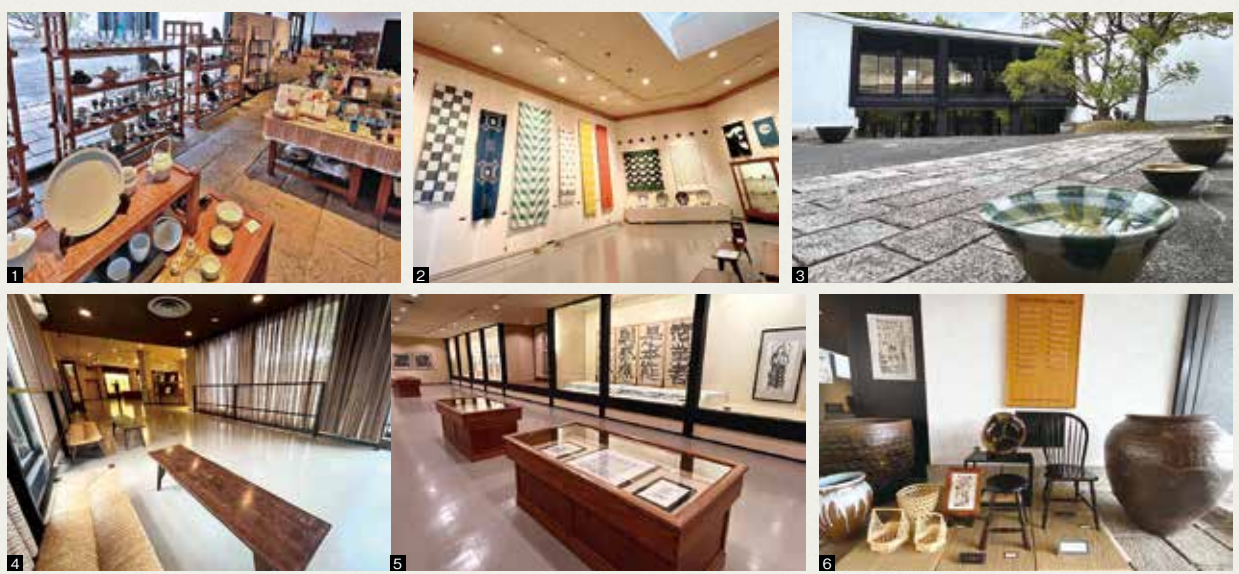
恒久的に建てられた
エキスポ'70の遺構

同館は、日本の手工芸の美しさや魅力を世界に発信することを目的に建てられ、万博後も恒久施設として残す前提で設計されました。建物だけでなく、展示ケースなども当時のものが使用され、訪れる人々に70年万博の空気感を伝える貴重なレガシーとなっています。

陶磁器を中心に木漆工品・染織品など幅広いジャンルの所蔵品は6000点に及び、年に2回の展覧会では、200〜300点の作品を展示しています。多様な工芸品に表現された「生活の中の美」を今に伝える役割を担います。

民藝とは「美しいもの」

民藝とは「民衆的工芸」の略で柳たちがつくった造語です。その定義は「名もなき職人が伝統技法で作った日用品である」と理解されがちですが、柳が重視したのは「それ



1 全国の民藝品を扱う同館売店 2 さまざまな民藝品を展示した館内 3 大鉢をオブジェとして設置した中庭
4 5 休憩スペースの家具、展示ケースなども70年万博当時のまま 6 手仕事の美しさが伝わる道具たち

が美しいかどうか」の一点でした。柳は工芸の美しさを、人間の意図だけでは生み出せない「他力」によるものだと説きました。長年積み重ねて生まれた技術や素材などのほか、土や窯、火といった自然の力、人智を超えた作用によって生まれる偶発的な美を「他力」と呼び、工芸の本質的な魅力と捉えたのです。

また柳は、自分で美しいと感じた工芸品を生活に取り入れてほしいというメッセージを「用と美」という言葉で表しました。生活様式の変化に伴い、使われなくなった道具をオブジェとして部屋に飾るなど、本来の用途以外の生かし方を使う側にも求めました。美しいものを長く使い続けてほしいという思いがあったのです。

民藝運動は1926年から始まりましたが、その頃は西洋文化がもてはやされ、デコラティブな装飾を施した日本の工芸品が輸出品として大量生産されていた時代でした。

その中であつて柳たちは日本各地に向き、日常の道具の美しさを評価して収集し、西洋の鑑賞芸術に引けを取らないほど価値のあるものだと世間に紹介する活動を徐々に広めていきました。

3月から春季特別展を開催

同館では年に2回、特別展

大阪府ウォーキング協会主催 大阪シティ信用金庫協賛

今月のおすすめウォーキング

2月のコースから一部をご紹介します

2月 曜	行事名	距離	最寄り駅・集合場所	集合時間	解散場所
14日 土	梅林(大阪天満宮、大阪城、高津宮)めぐり	9km/12km	JR 天満駅 扇町公園	9:45	JR 天王寺駅
18日 水	暗越奈良街道から深江の菅田へ	10km	JR 玉造駅 東小橋北公園	10:00	JR 森ノ宮駅
22日 日	早春の上町台地ウォーク 梅と桜と山茶花と	10km	JR 京橋駅 京橋公園	8:45	JR 天王寺駅
24日 火	箕面萱野駅周辺を散策 箕面と千里はとなり街	11km	北急・箕面萱野駅 駅前広場	8:45	北急 桃山台駅
25日 水	天満宮と大阪城の梅林観賞	10km	大阪メトロ淀屋橋駅 大阪市役所南側	10:00	JR 桜ノ宮駅

※参加費500円 事前申し込み不要です。会場へ直接お越しください

Data

大阪日本民芸館

〒565-0826 吹田市千里万博公園10-5
万博記念公園内
TEL: 06-6877-1971
[入場料] 大人710円
[開館時間] 10:00 ~ 17:00 (入館は16:30まで)

[休館日] 毎週水曜日、年末年始、展示替え期間、夏期休館・冬期休館(随時)
[アクセス] 大阪モノレール万博記念公園駅、公園東口駅から徒歩15分